1　自己評価及び外部評価票

【　事業所概要（事業所記入）　】

事業所番号	2072500776		
法人名	医療法人　円会		
事業所名	高森町　グループホーム大家族		
所在地	長野県下伊那郡高森町牛牧2467番地2		
自己評価作成日	平成30年1月29日	評価結果市町村受理日	平成30年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2072500776-00&PrefCd=20&VersionCd=022

【　評価機関概要（評価機関記入）　】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉総合評価機構　長野県事務所
所在地	長野県飯田市上郷別府3307－5
訪問調査日	平成30年2月15日

【　事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）　】

天気の良い日には散歩に行き、季節を肌で感じていただいている。生活リハビリを主としてご本人の「できること探し」を行っていただくことにより、それを役割として感じ、満足感が得られるよう支えている。また、計算ドリル、音読、塗り絵を楽しみ、体操も毎日行っている。職員は認知症の方に関心を持って穏やかな環境を整える視点と、利用者様の言動や気持ちを理解しようと「受容」「共感」する関わり方を心掛けている。安心して聞いてもらえるという関係づくりを通して寄り添う介護を行っている。介護度の変化は穏やかである。

【　外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）　】

この2年間に利用者が3人変わり、全体的に高齢化(平均82．7歳から86．9歳)が進み、介護度も(平均1．4から1．6)と上がってきている。しかし、このグループホームは理念の一つ目に「自立支援」を掲げているように、利用者が「認知症でありながらも一人ひとりが自分の身の回りのことができる」ことを目指し、着実に成果をあげてきていることがうかがえる。

このことは、次のような点から言えると考える。一つ目は、利用者の「できること探し」から見つけてきた役割分担を大事にし、「自立支援」を進めていることである。二つ目は、利用者の「自立支援」のために、運営やケアの場面でいろいろな工夫をしてきていることである。三つ目は、職員が多く異動したけれども、利用者との対応を工夫し、利用者同士の関係づくりに力を注いでいることである。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名（　　）

	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の２/３くらいの
			③利用者の１/３くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	①毎日ある
			②数日に１回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない

	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		「自立支援」
		○	②家族の２/３くらいと
			③家族の１/３くらいと
			④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（11,12）		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の２/３くらいが
			③職員の１/３くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の２/３くらいが
			③家族等の１/３くらいが
			④ほとんどできていない

（別　紙）

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況（太枠囲み部分）」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご家族や地域住民との融和を大切に、開かれたホームづくりに努めている。職員の移動が多かったので、年に1・2回は部会で再確認してケアに反映されるようにする必要がある。	理念の一つ目の柱「自立支援」を目指すケアについて、異動してきた職員とともに実践を通じながら共有してきている。また、理念の二つ目の柱「地域との結びつき」については、隣接する同一法人の「介護老人保健施設」や「特別養護老人ホーム」と連携しながら、グループホーム独自の地域交流を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩に出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり、話をしたりしている。保育園児も散歩の時にはグループホームに寄って話をしていってくれる。地域の「牛牧ふれあい広場」には継続的に参加することができ、利用者様は楽しみにされている。	このグループホームは、山裾のかなり標高の高い所にあり、周りには人家が少ないが、散歩に出かけたり、買い物に出かけたりして挨拶を交わすなど地域との交流が徐々に広がってきている。さらに、ボランティアを募り、交流を呼びかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として県の看護大学の実習生の受入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では活動報告、配膳の様子の見学と試食会、避難訓練の見学、リハビリの見学、利用者様との交流会等行い、感想、意見をもらっている。	運営推進会議では、利用者の情況報告やグループホームの活動報告をするばかりでなく、食事の準備から試食、後片付けまで見てもらったり、避難訓練の様子を見学してもらったり、リハビリ体操に参加してもらったり、利用者とお茶を飲みながら交流したりして介護の実際を体験してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に町の担当者に毎回参加してもらい、情報交換をしている。	これまで同一法人の事務を通してのつながりだけであったが、年6回の運営推進会議に毎回町の担当者が参加して、いろいろな場面での連携がとれるようになってきている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなくさりげなく声をかけたり、一緒についていったりする等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。	身体拘束の実例はない。利用者の中には、自由に外出して周りの畑などに行く傾向の方がいるので、散歩や買い物、本の貸し出しなどの機会に声をかけ、気持ちを落ち着かせるようにしている。職員は勉強会で認知症についての理解と対応を学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	不適切なケアについて話し合ったりして、虐待は決してしないという確認をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は施設の学習会に参加している。成年後見制度を活用している利用者様の支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書を基に説明している。特に、起こりうるリスク、契約の解除については詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には訪問時、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。そして、現在の利用者様の心身状態について報告し、利用者様の望む生活に近づくことができるよう、ご家族と話をして日々のケアに活かせるよう努めている。	遠方の家族の方も見えることから、多くの家族が集まり、話し合うような機会をなかなかつくりだせない。しかし、家族の訪問時には、その場にいる職員が対応し、利用者の状況について何んでも話すことのできるように努めている。そして、それを記録し、職員で共有できるようにしている。	家族の要望が表すことのできる方策を考えていきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会・ケア部会で職員の要望や意見を聞くとともに、職員会・ケア部会時に話し合っている。	毎月１回、職員会、その後にケア部会を開き、運営やケアについて職員から意見などを出してもらっている。司会は看護師が行い、記録は交代で行っているので、職員から話しやすいと言われている。ふだんは、「申し送りノート」を活用して、職員間で情報を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	同一法人の「介護老人保健施設」と同様、必要に応じて人事考課や苦慮していることなどを聞き、状況に応じて職員配置や職場環境改善等に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の学習会には必ず参加している。また、法人全体で組織している委員会へ参加しており、他職員との情報共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームと交流して、当グループホームのケアについて考える機会をもつようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するように努め、入居時に希望をお聞きして、ご本人が求めている事を把握し、聞いてもらえるという事から信頼関係を深めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症で困っている事をお伺いし、少しでも症状が和らぎ改善できるように働きかけ、要望が言いやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同一法人のソーシャルワーカーが在宅のケアマネジャーと相談しながら訪問したり、事業所見学を受け入れたりして、徐々に馴染んでいくように柔軟な対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は一緒に仕事（食器洗い、掃除等）をして「ありがとうございます」と労いの言葉や感謝の気持ちを表現している。利用者様に役割（テーブル拭き、お茶を入れる、洗濯物を干す、たたむ等）をもっていただき、それを行う事で自分の存在を認めてくれる人がいることを認識して、充実感や満足感を得てもらえる機会をつくっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との「連絡事項の表」を活用することで、ご本人を支えていくための協力関係が築ける事が多くなっている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者には居室でゆっくり話をしていただけるように声をかけている。お正月、お盆には外泊したり定期的にご家族と外食、ドライブへ行く事ができている。また、馴染みの美容院に通う利用者様もいらっしゃる。	面会があったり、電話がかかってきたりした時には記録して残し、活用できるようにしている。家族だけでなく、近所の友人が訪ねてきてくれたり、家族が外食や見物に連れて行ってくれたり、近くの美容院に通ったりして、利用者のこれまでのつながりを大切にし、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係については職員間で情報交換し、すべての職員が日々のケアの中で共有できるようにしている。また心身の状態や気分や感情で日々変化することもあるので、職員が調整役となって注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合、アセスメントやケアプラン、支援状況等を手渡すとともに、情報交換を行い、馴染みの職員が機会をつくって訪問している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で会話の機会をもち、言葉や表情などから、その意思を推し測ったり、役割が負担になっていたりしないかサービス担当者会議等で確認している。	初期の段階で、入居前の情報を聞いたり、会話や表情の中から意思を把握したりして、「個人カルテ」の介護記録に記入している。それを基に、「自分でできそうなこと探し」をして、暫定的な介護計画を作成している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人が安らかに、また、有する力を発揮しながら自分らしく暮らしていくことを支援するために、ご本人、ご家族の力を借り、これまでの暮らしの把握を継続的に行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活のリズムを理解するとともに、行動や小さな動作からご本人のできる力、分かる力を暮らしの中で発見し、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換をして、認知症の方の現状の意味するところをどのように捉えるのかを考え、ケアに活かしている。	利用者ごとに職員の担当者を決め、「介護経過」による評価を行い、これまでの介護計画を見直している。その過程で、本人や家族の意向を反映させて、職員全体で話し合い、介護計画を共有できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者様の状態変化は「個人カルテ」に記載し、職員間の情報共有を徹底している。また、その「個人カルテ」を基に介護計画の見直し評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に応じて、通院支援は民間のサービスを利用して通院している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の希望に応じて、訪問理容や移動図書館（月2回）を利用してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの利用前の受診の経過や現在の受診の希望を把握して、今までのかかりつけ医に受診となっている。ご家族の希望により往診の支援も行っている。歯科医も必要に応じて往診してもらっている。	これまでのかかりつけ医の往診や、受診を支援している。また、歯科医の往診もある。このグループホームは看護師がいるので、日々のバイタルチェックが徹底しているし、訪問看護ステーションとも連携していて、安心して利用者の健康を任せられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入浴時に全身チェックをして記録し、申し送りする事により、看護師は細かい部分まで把握し、それに対応もできている。同一法人の訪問看護ステーションによる月2回の定期訪問があり、バイタルチェック等の情報収集をしてもらっている。看護職員がいない時間には訪問看護ステーションに相談し、対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、入院中に訪問しながらご家族やソーシャルワーカーとも回復状況等の情報交換し、速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のご本人やご家族の意向をふまえ、同一法人の「介護老人保健施設」の医師と連携をとって、事業所ができるケアを確認し取り組んでいる。	重度化した場合、共同生活が困難になったり、自分での入浴が不可能になった場合などは、同一法人内の医師とも連携をとり、他の施設を紹介するなど、最善の対処を家族と相談している。自立度が上がり、高齢者住宅に移動した利用者もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同一法人の「介護老人保健施設」の勉強会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者様とともに避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。今年度は運営推進会議のメンバーにも見学してもらい、意見や感想を出してもらった。次回の訓練に活かせるよう検討した。	9月に、同一法人の「介護老人保健施設」と連携して、大がかりな避難訓練を行っている。夜間帯の火災を想定した通報、避難訓練で、利用者9名、職員3名、応援職員4名で行い、運営推進委員の参加も得てきた。このような体験を活かし、災害対策の協力体制を築いている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時もご本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉かけをしたりするよう努めている。「申し送りノート」を利用、ケアの統一、図っている。ケアに関しての話などそれらを担当が汲み取り、介護計画に反映している。	利用者一人ひとりを尊重することというのは、自己選択ができ、自己決定して自己表現ができることであると考え、職員は言葉かけに留意し、いつも感謝の気持ちを表すように努めている。このような配慮が、利用者同士の言葉の端々にも現われ、互いに認め合う関係ができている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に合わせて声かけをして、あせらないようゆっくり接することを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時のご本人の気持ちを尊重し、一日の中で自分のペースを保ちながら暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時、朝の着替えは、基本的にご本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。しかし、自己決定がしにくい利用者様には職員が一緒に考え、ご本人の気持ちにそった支援を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ、盛り付け、お茶入れ、片付け等を利用者様とともに行い、利用者様と職員とが同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう、雰囲気づくりも大切にしている。月１回は外食、または、お弁当や出前を頼んで、いつもと違う雰囲気を楽しんでいただいている。	利用者自身ができる仕事を分担し合いながら、食材の買い出しをしたり、食事の準備をしたりしている。職員と一緒になって楽しい話題を語り合いながら、会食していた。月１回は、近くの寿司屋に外食に出かけたり、仕出し弁当などを頼んだり、また、季節にあった食事会や利用者の誕生日会を開いたりして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同一法人の「介護老人保健施設」の管理栄養士の立てた献立を提供して、一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握している。また、嗜好品や食べやすい物等を提供したりして、いろいろ工夫している。水分摂取量の少ない方には好みのスポーツ飲料水を提供して水分摂取量に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には声かけ見守りをして、口腔ケアをしている。夜間は入れ歯洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、利用者様の様子から敏感に察知し、身体機能に応じて支援している。トイレでの排泄を大切にしながら失禁があってもおむつの使用を考える前に、下着を気軽に何度でも交換できるよう、居室に洗濯物を入れるバケツを用意して自立支援を行っている。歩行に不安のある方にはポータブルトイレを設置して夜間帯に使用している。	普通のパンツ使用者6人、リハビリパンツ使用者3人と、それぞれの利用者の身体や自尊心に配慮して、排泄の自立支援を行っている。そのために、排泄のパターンを記録したり、自分で汚れた物を入れるバケツを置いたり、夜間にポータブルトイレ(3名利用)を置いたりなどして工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩と水分補給の徹底を行い、便秘対策に取り組んでいる。排泄パターンの記録をとっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が、テレビや体操の時間に重ならないでほしいとの希望がある。タイミングを合わせて入浴を楽しんでもらっている。入浴後は身体にクリームを塗布して保湿に努めている。	月、水、木、土の4日間のうち週2回は好きな時に入浴できるようにしている。入浴をいやがる利用者や、職員2人で支援しなければならない利用者もいるが、自立支援を目指して、その人にあった援助をしている。入浴剤を入れたり、ショウブやユズやカリンを入れたりして入浴を楽しむようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活のペースで午睡したり心地よく眠ったりできるよう、日中の活動に配慮している。眠剤を飲まれている方には睡眠状況を把握し、日中の活動の妨げになってないかを確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「個人カルテ」に処方箋のコピーを整理し、職員が把握できるようにしている。服薬の変更時には利用者様の症状の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分らしく過ごせる時間を大切にし、ゆったりとした時間の流れの中で認知症の症状に応じた個別ケアを提供して、それが役割や喜びとなるよう、「できること探し」のケアを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ふだんはグループホームの周りを散歩したり、外で日光浴をしたりして気分転換をしている。また、職員と一緒に車で食材の買出しに行ったり、近隣の「特別養護老人ホーム」の演芸会に出かけたり、移動図書館に本を借りに行ったりしている。利用者様は年2，3回のふだんとは違う外食を楽しみにしている。ご家族と月1回の外食を楽しむことができている利用者様もいる。	グループホームは山裾にあり、周りは畑や果樹園が広がって、同一法人の「介護老人保健施設」や「特別養護老人ホーム」があり、上り下りのある道を散歩したり、行事や移動図書館で出かけたり、玄関先で日光浴をしたりしている。また、季節がよくなると、梅、桜、ツツジなどの花見に出かけたりしている。外に出れない時などには、いろいろな体操をしたり、紙芝居、歌、カルタのなどのレクレーションをしたりして楽しんでいる。中には、本を読んだり、ドリルをしたりして、それぞれの趣味を活かしている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力を得て事業所が管理している。職員と一緒に出かけ、菓子や本等を買う事ができている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人に近況報告（手紙）をするお手伝いをしている。電話をしたいという方にもご家族の了解を得て電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは床暖房で冬も快適に過ごせるようになっている。フロアの飾り付けや家具の配置は利用者様と一緒に考えて、自分が住んでいる家だという意識を高めてもらうようにしている。五月人形、お雛様や花を飾って季節を感じていただけるようにしている。	玄関を入ると、明るい食堂・リビングが中央に広がっている。この中でもテレビを囲んだリビングでは、利用者のみんながいろいろな体操(ゴム、嚥下、戦国、足踏み、もれない体操)やリハビリ(片足立ち、スクワットなど)を行って健康に気をつけたり、誕生日会・お茶会やボランティアの催しなどの集いを楽しんだり、仲間とおしゃべりやレクレーションをしたり、テレビを見たりして気晴らしする大切な場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	図書館から借りた本を自由に選んで見るスペースや窓際に椅子を置き外の様子を眺めるスペースがあり、居心地の良い空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やご家族の写真等を持ち込んでもらい、それぞれの利用者様の居心地のよさに配慮している。	それぞれの居室は冷暖房が完備され、過ごしやすくなっている。利用者と職員が一緒になって掃除しているので清潔で整理された空間となっている。利用者それぞれの好みや趣味に合わせて、いろいろな物が置かれ、移動図書館から借りてきた本や自分で買った本が置かれ、静かに読んでいる利用者の姿が浮かんでくるようである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせて環境整備に努めている。状態が変わったり新たな混乱や失敗、事故が生じたりした時は、そのつど職員で話し合い、ご本人の不安、混乱材料を取り除き、自分らしく過ごせる時間がもてるよう支援している。		